

【建コン協北陸支部の技術部会活動】

技術セミナー「『散居村』の今とこれからを考える」 ～農村の原風景『散居村』の魅力、保全と活用～を開催しました！

日 時：平成30年10月31日（水）～11月1日（木）

開催場所：10月31日（水） 高岡市生涯学習センター 研修室503（富山県高岡市）

11月 1日（木） 閑乗寺公園 散居村展望広場（富山県南砺市）

入道家住宅、となみ散居村ミュージアム（富山県砺波市）

参加者：（一社）建設コンサルタンツ協会北陸支部 会員16名

建設環境委員会では、昨年に引き続き技術セミナーを企画・開催いたしました。今年は、日本最大と言われる“砺波平野の散居村”に着目し、「『散居村』の今とこれからを考える」をメインテーマとして、2日間にわたって「基調講演」「グループ討議」「現地視察」を行いました。

1日目は、「基調講演」として、富山大学芸術文化学部の奥敬一准教授に多様な視点から散居村の魅力や課題についてご講演いただきました。次に、砺波市の職員の方から散居景観保全の取組について話題提供をいただき、「現代における散居村の生活と自然との関わりの在り方」についてグループ討議を行いました。グループ討議では、参加者が“住居・生活”“観光・文化”“生物多様性”の3つのテーマに分かれ、奥准教授、砺波市職員の方を交えて活発な意見交換が行われました。

2日目は、散居景観を一望できる展望広場で散居村の成り立ちや変遷を学び、伝統的建築様式アツマダチの典型例である「入道家住宅（富山県指定重要文化財）」を見学、最後に「となみ散居村ミュージアム」で多くの資料に触れ、理解を深めました。現地視察では、砺波散居村地域研究所事務局長兼となみ散居村ミュージアム館長の川原氏に、視察箇所の選定から現地案内まで多大なご支援をいただきました。

来年以降も、この技術セミナーを年1回の定期活動として取り組む予定です。



グループ討議（討議結果を発表して共有）



現地視察（展望台から散居景観の変遷を学ぶ）